

三菱電機グループ サステナビリティレポート 2020

ハイライト



Contents

経営戦略	2
会社概要及び業績／グローバルな事業展開	3
新型コロナウイルス感染症への対応について	
三菱電機の事業分野	5
社長メッセージ	7
価値創出活動	9
CSRの重要課題への取組	11
CSRマネジメント	15
マネジメント/主なイニシアティブ/主な外部からの評価	15
CSRの重要課題とSDGsマネジメント	17
17の目標への取組	19
事業を通じた社会への貢献 取組一覧	20
CSRの重要課題に関するマネジメント状況	21
社会貢献活動	23
掲載情報一覧	26

編集方針

より持続可能(サステナビリティ)な社会へ貢献していくことを目指し、2020年度に「CSRレポート」を「サステナビリティレポート」に変更しました。

本「サステナビリティレポート2020 ハイライト」は、持続可能な社会の実現に向けた三菱電機グループのサステナビリティ・CSRの取組について、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを目的に作成しました。三菱電機グループのサステナビリティ・CSRの全体像をお伝えするとともに、主に2015年度に特定した三菱電機グループのCSRの4つの重要課題に沿って、その基本的な考え方と取組事例を紹介しています。三菱電機グループは、社会への説明責任を果たし、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションの輪を広げていきたいと考えています。忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

サステナビリティ・CSR報告に関するアンケート

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/enq/2020/csr-1/terms.html>

報告対象期間

2019年4月1日～2020年3月31日(次回発行予定2021年9月)

※2020年度以降の方針や目標・計画などについても一部記載しています

報告媒体について

三菱電機グループは、ウェブサイト「サステナビリティ」／「サステナビリティレポート」にて非財務情報について報告しており、環境情報についてはウェブサイト「環境への取組」／「環境報告」にて詳細に報告しています。なお、「サステナビリティレポート」はウェブサイトで開示し、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを目的とした「サステナビリティレポート ハイライト」も発行しています。

サステナビリティ

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/index.html>



ウェブサイト



サステナビリティ
レポート



サステナビリティ
レポートハイライト

環境への取組

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/environment/index.html>



ウェブサイト



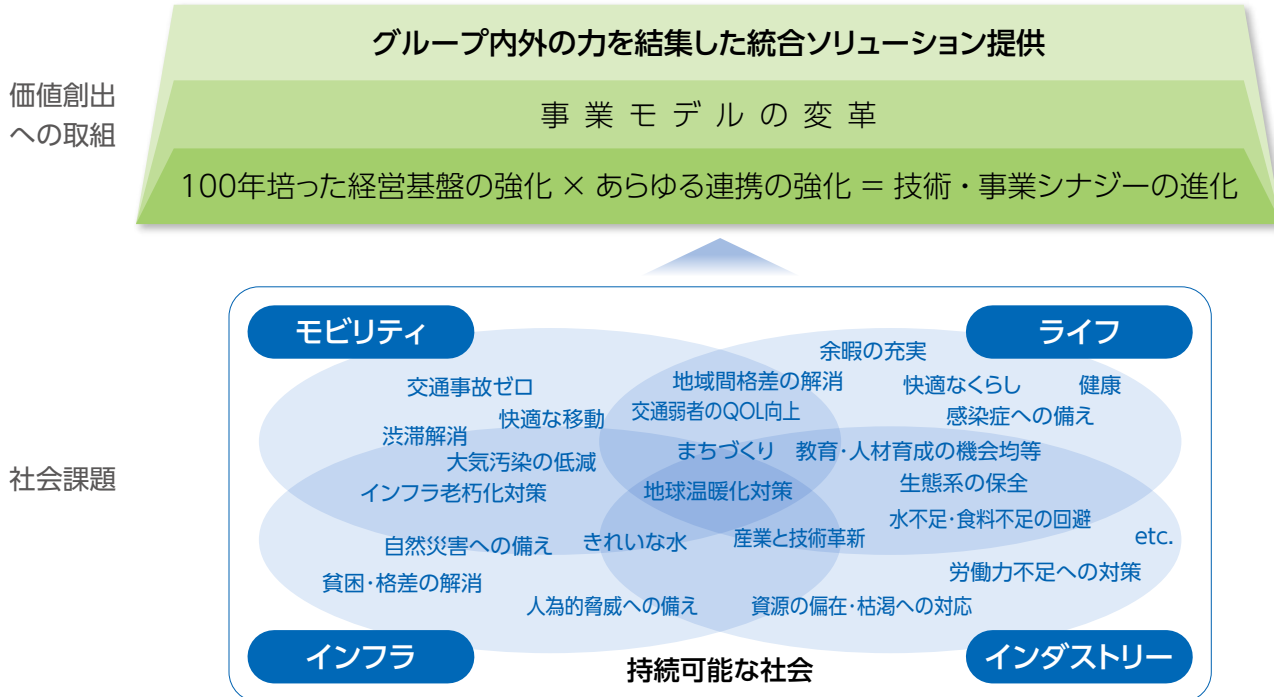
環境報告

※詳しくはP.26「掲載情報一覧」をご覧ください

経営戦略

多様化する社会課題の解決に向け、100年培った経営基盤*の強化に加え事業モデルの変革により、ライフ、インダストリー、インフラ、モビリティの4つの領域において、グループ内外の力を結集した統合ソリューションを提供していきます。

* 100年培った経営基盤：顧客との繋がり、技術、人材、製品、企業文化等

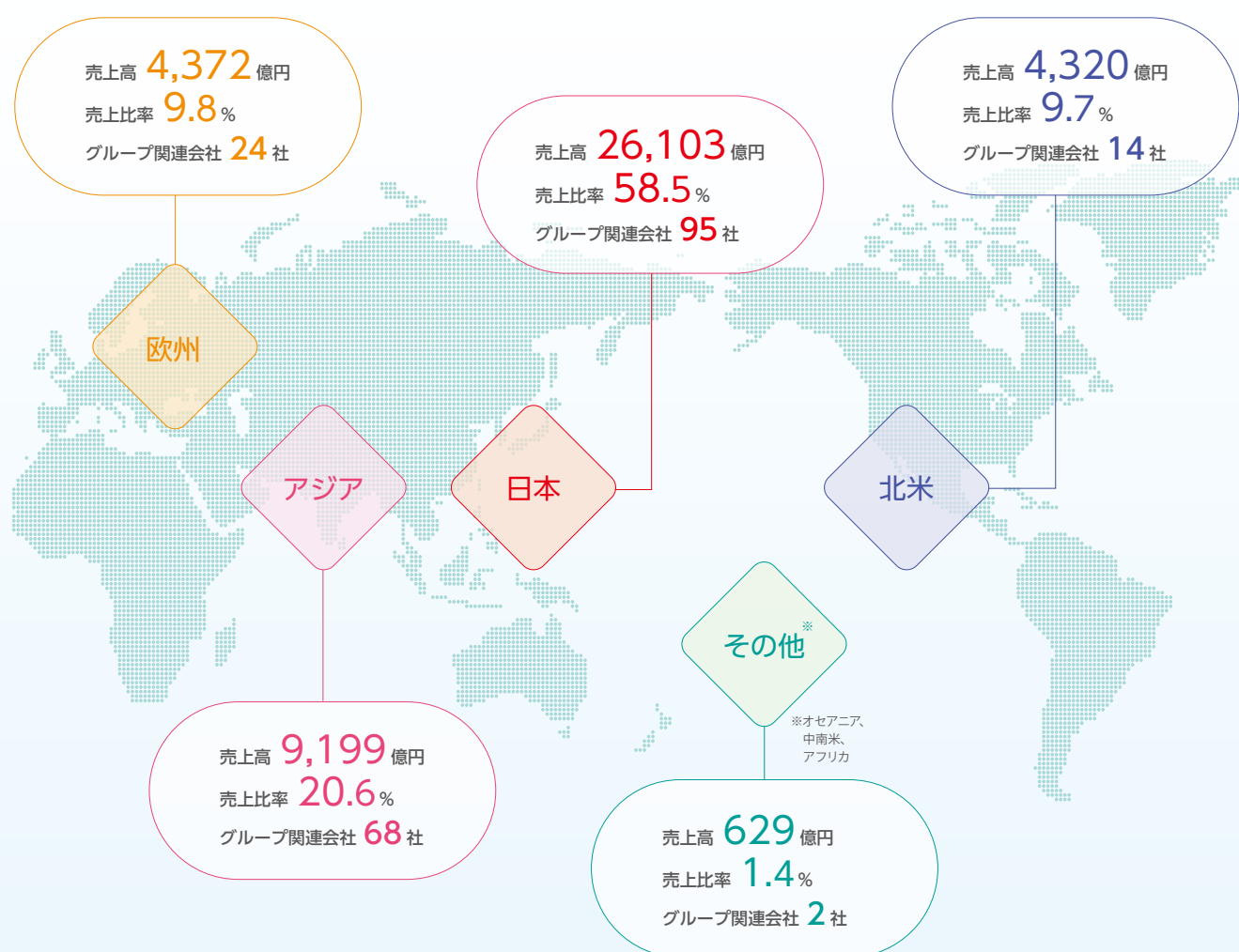


経営戦略に基づき、社会課題の解決に向けた価値創出を追求するとともに、全ての企業活動を通じて世界共通の目標であるSDGs**の17の目標達成に貢献します。

** SDGs：Sustainable Development Goals。国連総会で採択された2030年に向けた「持続可能な開発目標」



グローバルな事業展開



会社概要 (2020年3月末現在)

社名：	三菱電機株式会社
本社：	〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビル
代表者：	杉山 武史
電話：	03-3218-2111(代表)
設立：	1921年1月15日
資本金：	175,820百万円
発行済株式数：	2,147,201,551株
連結売上高：	4,462,509百万円
連結総資産：	4,409,771百万円
連結従業員数：	146,518人

新型コロナウイルス感染症への対応について

1. 勤務についての取り扱い

業務運営上、在宅勤務で支障がない業務については、在宅勤務を活用し、業務を行うこととしています。在宅勤務が困難な業務については、感染防止対策を徹底した上で、事業所に出社し、業務を行うこととしています。
今後も柔軟で効率的な働き方として、テレワークやオンライン会議の活用をより一層推進していきます。

2. 感染防止対策

従業員の安全・健康を第一に、各事業所において、清掃・消毒の徹底、時差出勤・退勤の促進、ソーシャル・ディスタンス(フィジカル・ディスタンス)の確保策など、感染防止対策の徹底と強化を図っています。

3. 情報開示

新型コロナウイルス感染症への対応についての最新の状況は、ウェブサイトにて開示しています。
<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/notice/2020/prd/>

4. 新たな生活スタイル・ビジネススタイルに向けて

新型コロナウイルス感染防止対策を通して、世の中の価値観が大きく変わっていくことを想定しています。その新たな価値観を、新たな働き方、ビジネススタイルに取り入れ、変化する需要への対応や社会課題の解決に全力で取り組んでいきます。



光のアニメーションによるライティング誘導システム「てらすガイド」

1. ビジネススタイルの変革

- テレワーク、オンライン会議の本格活用をはじめとするグループ全体の業務革新
- 社会の価値観の急速な変化を受けた、デジタル環境下でのマーケティング、商取引、サービス提供、ユーザー教育体制等の早期確立

2. 新たな社会課題に対する統合ソリューションの提供

- グループ内外の力を結集し、変化する需要への対応や社会課題解決に全力で取り組む一例として

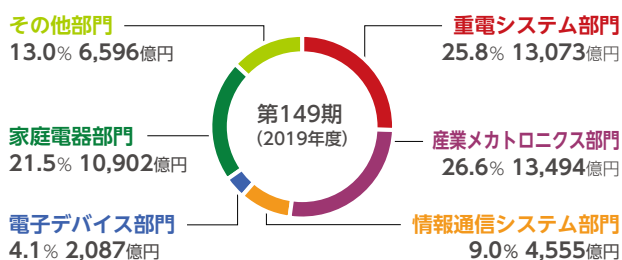


※2020年7月現在

業績

	第148期 (2018年度)	第149期 (2019年度)
売上高	4兆5,199億円	4兆4,625億円 (前年度比 99%)
営業利益	2,904億円	2,596億円 (前年度比 89%)

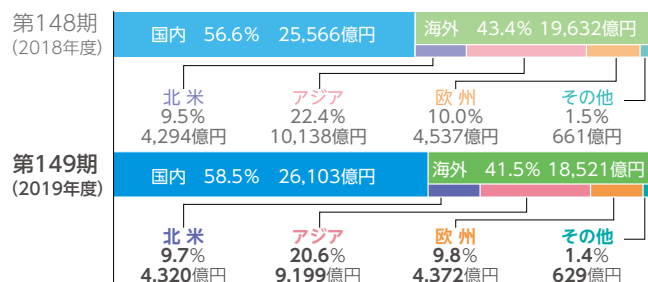
■ 部門別売上高



※部門別売上高には、部門間の内部売上高(振替高)を含めて表示しております。

	第148期 (2018年度)	第149期 (2019年度)
税引前当期純利益	3,159億円	2,819億円 (前年度比 89%)
親会社株主に帰属する当期純利益	2,266億円	2,218億円 (前年度比 98%)

■ 向先地域別売上高



※向先地域別売上高は、顧客の所在地別に表示しております。

三菱電機の事業分野

ビル



安全で快適な縦移動と環境にやさしく安心・快適・効率的なビルソリューションを提供。

三菱電機の昇降機は、世界90カ国以上で100万台以上が稼働し、人々の安全で快適な縦の移動に貢献しています。また、空調や照明などのビル設備の効率的な制御・管理や、セキュリティシステムと各種業務システムとの連携により、環境にやさしく、かつ安心・快適・効率的なビルソリューションを提供します。

主な製品 ■エレベーター ■エスカレーター ■ビル管理システム
■ビルセキュリティシステム

産業・FA



高い価値をもたらす製品・ソリューション・サービスの提供により、世界の「ものづくり」を支える。

シーケンサやレーザー加工機などのFA分野で世界トップクラスのメーカーとして各国の「ものづくり」を支えています。また、FA技術とITを活用し、開発・生産・保守の全般にわたるトータルコストを削減するFA-IT統合ソリューション「e-F@ctory」も展開しています。

主な製品 ■シーケンサ ■サーボ ■産業用・協働ロボット ■配線用遮断器
■省エネ支援システム ■数値制御装置(CNC) ■レーザ加工機 ■金属3Dプリンタ

公共

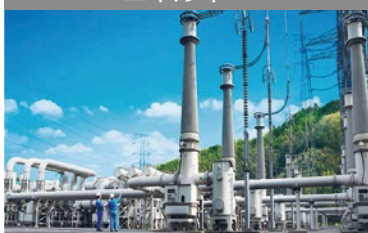


もっと良い未来のために、確かな生活基盤を最先端の技術で。

高度な社会インフラに貢献するライフラインや公共施設・サービスなど、生活基盤を築く数々の分野で事業を展開しています。水環境システムを始め、安心・安全な社会づくりへの貢献、そして映像エンターテインメントの提供まで、社会が必要とするものをつくり出し、暮らしの質を高めていきます。

主な製品 ■水処理技術 ■航空管制システム ■大型映像装置 ■防災情報システム

エネルギー



川上から川下まで、国内屈指の総合力で電力インフラを構築。

創業以来携わってきた伝統あるビジネスであり、発電から送変電、配電に至るすべてのフェーズにおいて、世界各国の電力インフラの発展に大きな役割を果たしてきました。クリーンエネルギーの需要が高まる中、スマートグリッド関連事業など、新たなエネルギービジネスも積極的に展開しています。

主な製品 ■タービン発電機 ■保護、制御システム ■真空遮断器 ■変圧器
■受変電システム ■系統安定化システム ■開閉装置 ■蓄電池制御システム
■電力変換機器・システム ■超電導応用製品 ■電力ICTソリューション

交通



車両用機器・システムをトータルで提供する「鉄道の三菱電機」。

1964年の開通以来、すべての新幹線において車両・地上システムの開発に携わってきた技術力。そして、様々な分野で培ってきた電力や通信などの技術を集結し、省エネにも貢献しています。既に世界30カ国以上で三菱電機の製品が採用されています。これからも省エネで安全、快適な国内外の鉄道を支えていきます。

主な製品 ■車両用主回路システム ■車両用空調装置 ■車両情報管理装置
■電力管理システム ■トレインビジョン ■列車運行管理システム

自動車機器



多彩な製品群で、モータリゼーションの発展を下支えする。

世界で初めて製品化した電動パワーステアリングを始めとして、世界トップクラスのシェアを誇る数多くの製品で安全・安心・快適なクルマづくりを支えています。電気自動車やハイブリッド車の普及、自動運転の実現など、変わり続ける時代のニーズを様々な視点からとらえ、誰もが安全に安心して利用できるクルマづくりに貢献していきます。

主な製品 ■エンジン電装品 ■電動パワーステアリングシステム ■エンジン制御製品
■カーマルチメディア製品 ■電動化関連製品 ■予防安全製品

宇宙



宇宙という広大なビジネスフィールドで先端技術が活きる。

これまでに世界各国で570機以上の人工衛星開発に参加しています。宇宙環境を再現できる試験設備を備え、人工衛星の設計・製造・試験を一貫して自社内で行うことができます。また、ハワイの「すばる望遠鏡」やチリの「ALMA望遠鏡」など、大型望遠鏡の分野でも世界をリードしています。

主な製品 ■人工衛星 ■大型望遠鏡 ■人工衛星搭載機器

通信

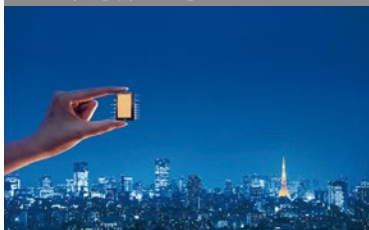


情報を「送る」技術で、快適なコミュニケーションを実現。

インターネットなどの通信インフラ上で、高画質動画コンテンツなど大容量データを高速でやりとりするための光通信システム製品を手がけています。また、安心・安全な社会の実現に貢献する映像セキュリティシステムや、エネルギーの最適利用に向けたスマートメーター用無線通信システムなど、多彩な製品を通じて豊かな社会づくりを支えます。

主な製品 ■光通信システム ■無線通信システム ■映像セキュリティシステム

半導体・電子デバイス



より豊かな社会を支えるキーデバイスを提供。最先端技術に挑戦。

家電から宇宙まで、機器のキーデバイスとして活躍し、我々の暮らしを豊かにする半導体・デバイスを提供しています。特にパワー半導体デバイスは家電製品や産業機器、電気自動車、鉄道などの電力制御やモーター制御、風力発電や太陽光発電などあらゆる分野で活躍。その性能によって各分野で高い省エネ効果を生み出しています。

主な製品 ■パワー半導体モジュール ■光デバイス ■高周波デバイス ■TFT液晶モジュール

空調・冷熱

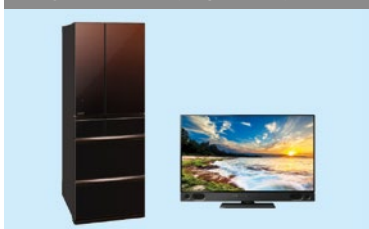


家庭からビジネスまで暮らしのあらゆるシーンで快適と省エネ性の両立を求めて。

ルームエアコン「霧ヶ峰」に代表される住宅用から、店舗、オフィス、ビル用まで幅広く快適で環境に配慮した省エネ効率の高い空調機を日本国内を始め世界へ提供しています。一方で冷凍・冷蔵などの低温分野においても、倉庫・食品加工場やアイススケートリンクへ冷凍機や除湿機など、流通から産業分野まで幅広い製品・システムを提供しています。

主な製品 ■ルームエアコン ■業務用空調機 ■低温機器・給湯機・産業冷熱製品

ホームエレクトロニクス



お客様の快適な生活の実現のために。

キッチン・リビング・寝室等、幅広い生活シーンでお使いいただける家庭電器商品を提供しています。それぞれのシーンでお客様の期待にこたえ、更に期待を超える商品を提供することでお客様の快適な生活を実現していきます。

主な製品 ■液晶テレビ ■冷蔵庫 ■掃除機 ■ジャー炊飯器

ITソリューション



暮らしのあらゆる場面に、ITで快適・安心・発展を提供。

金融機関や製造現場、社会インフラ（交通・航空・空港・電力）、デベロッパーなど幅広い分野において、暗号化を始めとするセキュリティ技術やIoT技術、及びクラウド基盤の活用により、豊かな暮らしと社会を支えるITソリューションを提供しています。

主な製品 ■ターミナルレーダー情報処理システム ■空港旅客案内情報システム
■大規模ネットワークシステム ■大規模セキュリティシステム

社長メッセージ

多様化する社会課題の解決に貢献し、持続的な成長を目指します。



グローバル社会の期待に応える

新型コロナウイルス感染症で亡くなられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、罹患された皆様とご家族及び関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、医療現場をはじめ、治療や感染拡大防止の最前線でご尽力されている皆様に心より感謝と敬意を表します。

三菱電機グループでは、お客様・取引先をはじめとする関係者の皆様と従業員・家族の安全・健康を最優先とし、在宅勤務の徹底や生産・工事・サービス関連部門でのソーシャルディスタンス確保等、感染防止対策を十分に講じた上で、市民生活の維持に向けた企業としての社会的責任を果たすために必要な事業を継続し、製品の安定供給やサービスの提供、お客様へのご支援等を行ってまいります。

2020年度、三菱電機グループは創立100周年を迎えます。1921年の創立以来、私たちは時代の要求に応える多様な製品やサービスを提供し、社会に貢献することで成長してきました。

昨今の社会を見渡すと、変化のスピードが速まり、気候変動や資源の枯渇、地域格差、貧困や労働・人権の問題など、社会課題は多様化しています。私たちは、100年の歴史の中で培ってきた技術、人材、製品などの強みを活かし、このような課題の解決に貢献できる企業グループを目指していかなければなりません。

今日、企業が発展するためには、自社の利益だけを追求するのではなく、自社の成長と社会への貢献を両立させることが不可欠です。グローバルに事業を営む企業の責務を果たすため、三菱電機グループは2018年に「国連グローバル・コンパクト」に署名し、人権・労働・環境・腐敗防止という4分野10原則に基づいた企業活動を行っています。

また、世界共通の目標であるSDGs*（持続可能な開発目標）が策定されて以来、年々企業経営と社会課題の結びつきは強まってきていると感じています。三菱電機グループは、総合電機メーカーの強みを活かしつつ、すべての企業活動を通じてSDGsの17の目標達成に貢献していきます。

さらに、2019年度に明らかになったCSRの重要課題に関わりのある様々な問題を重く受け止め、再発防止に真摯に取り組み、グローバル社会における責任ある企業としての役割を果たしていきます。

* SDGs (Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標) は、2015年に国連総会で採択された、2030年に向けた人、地球及び繁栄のための行動計画

社会課題の解決を経営の中心に据えて

三菱電機グループは2019年、経営戦略にて社会課題の解決に向けた価値創出を追求することを発表しました。

策定にあたっては役員による議論を重ね、三菱電機グループは事業活動を通じて社会課題を解決していく企業体を目指すべきだということを確認しました。

多様化する社会課題に対し、三菱電機グループが貢献しうる社会課題を、ライフ、インダストリー、インフラ、モビリティの4つの「領域」と定義し、100年培ってきた経営基盤を強化するとともに、事業モデルの変革により、この4つの領域において、グループ内外の力を結集した総合ソリューションを提供していきます。

既存の枠組みでは対応の難しい新たな事業モデル構築や新事業創出・育成を加速するため、2020年4月にビジネスイノベーション本部を設立しました。「家庭から宇宙まで」幅広い事業を手掛ける三菱電機グループの横串を通し、シナジーを発揮していくこと、さらにそこを土台として自ら新領域の事業を開発していくことをビジネスイノベーション本部のミッションとし、新たな価値を創出することで社会に貢献したいと考えています。

また、総合電機メーカーとはいえ三菱電機グループだけでは対応しきれない課題も少なくありません。深い知見を持つ研究機関やスタートアップ企業などとのオープンイノベーションを積極活用し、事業推進に取り組んでいきます。

4つのCSRの重要課題に着実に取り組む

三菱電機グループのCSRの4つの重要課題「持続可能な社会の実現」「安心・安全・快適性の提供」「人権の尊重と多様な人材の活躍」「コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの継続的強化」に引き続き注力します。

環境問題に対しては、2050年に向けて掲げた「環境ビジョン2050」*1を策定し、長期的な取組を推進していきます。国際的な規範に則った活動や情報開示を重視し、2019年にTCFD*2（気候関連財務情報開示タスクフォース）への賛同を表明したほか、2020年1月にはSBT（Science Based Targets）イニシアティブ*3の認定を取得しました。

非常に残念なことですが、2019年度はCSRの重要課題に関わりのある様々な事案を発生させてしまいました。一つは大切な従業員の命や心身の健康に関わる労務問題です。二度と繰り返さぬよう、従業員全員が心身の健康を維持し、安心していきいきと働ける職場環境の実現にグループを挙げて全力で取り組んでいきます。また、お客様との契約を満たさない製品を出荷していた品質管理上の問題、及び情報セキュリティに関する不正アクセス問題でも、ステークホルダーの皆様にご心配とご迷惑をおかけしました。お客様や関係機関への報告が遅れてしまったことについても重く受け止めています。これらの事案については社外取締役からも多くの提言を受けており、グループ全体で再発防止に取り組んでいきます。

*1 2019年6月13日広報発表 「三菱電機グループ「環境ビジョン2050」策定」

*2 TCFD(Task Force on Climate-related Financial Disclosures)はG20の財務大臣・中央銀行総裁からの要請により設置された、民間主導による気候関連財務情報の開示に関するタスクフォース

*3 SBT(Science Based Targets)イニシアティブは国連グローバル・コンパクト(UNGC)、世界自然保護基金(WWF)、CDP、世界資源研究所(WRI)による国際的イニシアティブ

価値創出への挑戦を続ける

今後は、ステークホルダーの皆様に対する適時適切な情報開示をより進めていく必要があります。特に、取組の結果だけでなく、三菱電機グループの考え方や課題への認識、いかに取り組んでいるかという過程についても積極的に伝えすることで、多様なステークホルダーの皆様との接点が増え、新たな共創の可能性も広がると考えています。

会社の方針や全社的な活動をしっかり示していくことは、従業員とのコミュニケーションという観点からも大切です。社長就任以来、様々な拠点を回って従業員と対話する「社長フォーラム」を実施し、会社の方針などを直接伝えるとともに、現場の声を広く吸い上げています。三菱電機グループはこれまでも小集団活動などを通して従業員同士の対話を行ってきました。このような企業風土を活かし、お互いの違いを認め合いながら、あるべき姿について考えることで、職場が一体となり、強い力を発揮することができると考えています。

2020年度は、三菱電機が100周年を迎える節目の年です。社会の新しい価値観に対応するためにも、人々が願う社会を実現するためにも三菱電機グループの持てる力を使って社会課題の解決に貢献していくべきと考えます。従業員には、日頃から地域活動やボランティア活動などを通じて視野を広げ、自分の業務を通じて社会課題を解決するという意識を持ち、より良い明日への探究を続けてほしいとメッセージを伝えています。

新型コロナウイルス感染防止対策を通して、暮らし、働き方やビジネスのスタイル、コミュニケーションの方法など、世の中の価値観がこれまでとは大きく変わっていくことを想定しています。新たな価値観を我々自身の働き方にも取り入れていくとともに、グループ内外の力を結集し、変化する需要への対応や社会課題解決に全力で取り組んでまいります。

執行役社長

杉山 武史

インタビュー時期：2020年春 インタビューアー：株式会社クレアン 代表取締役 園田 綾子

価値創出活動

三菱電機グループは、環境問題や資源・エネルギー問題をはじめ多様化する社会課題に対して、製品・システム・サービスの提供等により解決に取り組み、「持続可能な社会と安心・安全・快適性の両立」をはじめとする価値創出への取組を推進することを通じて、グループ全体で持続的な成長を追求いたします。

理 念

企業理念

三菱電機グループは、技術、サービス、創造力の向上を図り、活力とゆとりある社会の実現に貢献する。

7つの行動指針

信頼 社会・顧客・株主・社員・取引先等との高い信頼関係を確立する。

品質 最良の製品・サービス、最高の品質の提供を目指す。

技術 研究開発・技術革新を推進し、新しいマーケットを開拓する。

貢献 グローバル企業として、地域、社会の発展に貢献する。

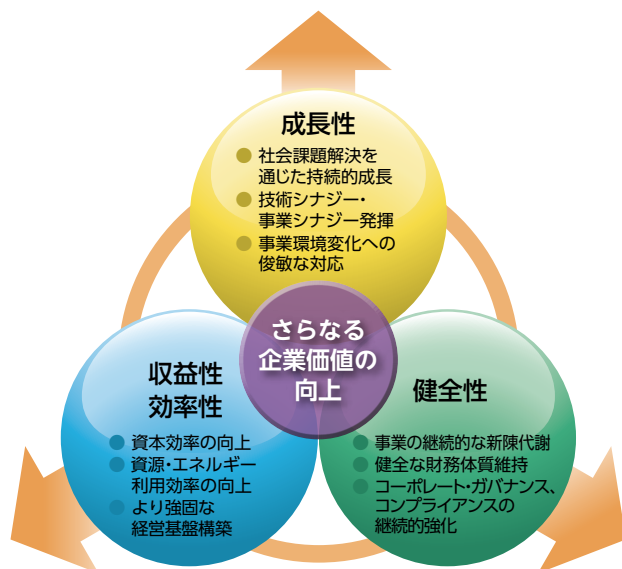
遵法 全ての企業行動において規範を遵守する。

環境 自然を尊び、環境の保全と向上に努める。

発展 適正な利益を確保し、企業発展の基盤を構築する。

経営方針

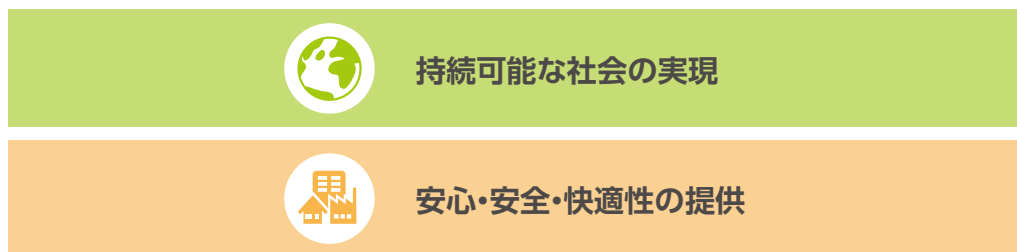
バランス経営



4つの満足

社会への貢献	よい製品・サービスの提供
社会の満足	顧客の満足
企業価値の向上	働きがいのある職場づくり
株主の満足	従業員の満足

CSRの重要課題





また、こうした価値創出への取組を中心として、すべての企業活動を通じてグループの持続的成長を追求することにより、世界共通の目標であるSDGsの達成にも貢献してまいります。

全ての企業活動を通じた貢献

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



事業を支える取組



環境

社会

ガバナンス



価値創出による貢献

重点的に取り組むSDGs



4つの領域



価値創出への取組

グループ内外の力を結集した
統合ソリューション提供

事業モデルの変革

100年培った経営基盤の強化 ×
あらゆる連携の強化
=技術シナジー・事業シナジーの進化

※100年培った経営基盤・顧客との繋がり、技術、人材、製品、企業文化等

SOCIETY 5.0
CO-CREATING THE FUTURE

持続的成長

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

多様化する社会課題



人権の尊重と多様な人材の活躍



コーポレート・ガバナンス、
コンプライアンスの継続的強化

CSRの重要課題への取組

三菱電機グループは、CSRの取組を企業経営の基本を成すものと位置付けています。CSRをより経営と一体化し、長期的に推進していくために、4つのCSRの重要課題(マテリアリティ)を特定し、その取組をサプライチェーンと共に推進しています。



持続可能な社会の実現



環境ビジョン2050

2020年度を目標とした「環境ビジョン2021」を策定し、「低炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の実現に向けて取り組んでいます。

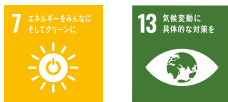
2050年に向け、環境課題への長期的な取組姿勢を定めた「環境ビジョン2050」を策定しました。さまざまな環境課題の解決にむけて、一人ひとりの想いをつなぎ、新しい価値の創出に挑戦し、持続可能な社会の実現に貢献します。

重要とした理由

気候変動をはじめとする環境問題、資源・エネルギー問題は、世界的な課題です。三菱電機グループは、持続可能な社会の実現を目指し、これらの解決に貢献していきます。

主な2020年度目標

SDGs「目標7:エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「目標13:気候変動に具体的な対策を」に貢献する製品・サービスの提供



製品使用時のCO₂排出量削減の推進

2000年度比で
35%
以上削減

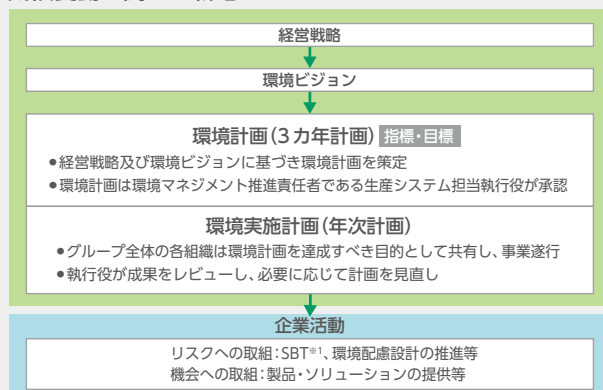
生産時のCO₂排出量削減の推進

147万
トン以下
(CO₂換算)

気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) の提言に基づく開示情報

三菱電機グループは、気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD: Task Force on Climate-related Financial Disclosures) の提言への賛同を表明しています。同提言に沿って、気候変動関連情報の開示に努めています。

気候変動に関する戦略

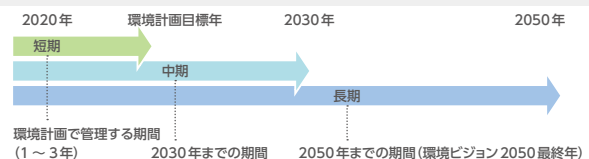


※1 Science Based Targets (パリ協定の長期目標と科学的に整合した温室効果ガス削減目標) ※2 2℃シナリオ: IEA450シナリオ等を用いました。
 ※3 4℃シナリオ: IPCC RCP8.5シナリオ等を用いました。 ※4 レジリエンス: 強靱性 ※5 結論はシナリオに基づくものであり、将来の見直しは異なる可能性があります。

シナリオ分析を通じたリスクと機会の評価概要

シナリオ分析を通じて、気候関連のリスクと機会に対する三菱電機グループの企業活動を評価しています。

評価にあたっては、平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃未満に抑えるための移行状況(社会動向)を示すシナリオ(2℃シナリオ^{*2})と、温暖化対策が従来の延長線上に留まることで気温が4℃近く上昇する場合のシナリオ(4℃シナリオ^{*3})を用いました。またシナリオ分析の対象期間は2050年までとし、期間は以下のとおり分類しました。



気候関連のリスク・機会とそれらに対する取組を評価した結果、三菱電機グループは、2℃シナリオ、4℃シナリオのいずれの進行下においても、気候変動のリスクに対するレジリエンス^{*4}と、気候変動にかかる課題の解決を通じた持続可能な成長機会を有していると評価しています^{*5}。

詳細は**環境報告2020**をご確認ください



CSRの重要課題への取組

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/management/materiality/index.html>

環境への取組

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/environment/index.html>

お客様への対応

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/social/consumer/index.html>



安心・安全・快適性の提供



映像解析ソリューション「kizkia（きづきあ）」

三菱電機グループは創立以来、製品やサービスを提供することにより社会に貢献してきました。

高品質で使いやすい製品づくりから、ご購入後のサポート、不具合発生時の対応まで、すべての事業活動において常にお客様の満足向上に努め、社会の繁栄に貢献していきます。

重要とした理由

都市化などに伴い様々な課題が顕在化しつつあります。三菱電機グループは、まちづくりを中心に課題解決に貢献し、安心・安全・快適性を提供していきます。

主な2020年度目標

SDGs「目標11:住み続けられるまちづくりを」に貢献する製品・サービスの提供



重要不具合の全社での
情報共有迅速化による
対応力の強化

リスクアセスメントによる
安全性の追求
対象家電製品のリスクアセスメント実施

100% 維持

1. 三菱電機及び三菱電機子会社の品質保証体制の再点検結果について

三菱電機及び三菱電機子会社などで一部製品に品質管理上の不適切行為や製品認証に関わる関係機関への申請不備などが判明しました。品質風土醸成の再徹底・品質管理体制の強化に努めるほか、コンプライアンスの再徹底、内部統制の強化に取り組んでいきます。



2019年08月02日広報発表「当社および当社子会社の品質保証体制の再点検結果について」

2. 三菱電機の一部のパワー半導体製品の出荷検査誤りについて

三菱電機パワーデバイス製作所が製造する一部のパワー半導体*製品において、2014年11月から2019年6月までの間、お客様と取り交わした規格どおりの出荷検査を行わずに出荷していました。前述した1項を全社にて実施後、継続している品質管理強化への取り組みの中で判明しました。品質風土醸成の再徹底・品質管理体制のさらなる強化に加え、迅速な情報共有に取り組んでいきます。

* 電気を交流から直流に変換したり、電圧を上げ下げすることで、電力を効率よく制御する半導体



2020年02月10日広報発表「当社の一部のパワー半導体製品の出荷検査誤りについて」



人権の尊重と多様な人材の活躍



働き方改革の取組

三菱電機グループは、事業を行う各国・地域において、広く人や社会とのかかわりを持っていることを認識し、すべての人々の人権を尊重します。また、多様な人材が活躍できるよう「働き方改革」を進めています。

重要とした理由

人権やダイバーシティは、世界的な課題です。三菱電機グループは、グローバル企業としてこれらの課題に対応します。また、ダイバーシティは、三菱電機グループの強みの源泉であるイノベーション創出のためにも重要です。

主な2020年度目標

全従業員への
ハラスメント防止教育の実施

受講率

100%

人権侵害に関する
通報制度の充実化

技術系新卒採用に
占める女性比率の向上

2021年度

20% 以上

労務問題の再発防止に向けた取り組みについて

三菱電機グループでは、過去に社員の命や心身の健康にかかわる労務問題が発生しており、都度、再発防止策を講じてきましたが、2019年度に同様の労務問題が発生したことを真摯に受け止め、これまでの取り組みが十分でなかったという深い反省に立ち、新たな施策も含めて再発防止策をまとめました。

労務問題の再発防止を経営の最優先課題とし、社員全員が心身の健康を維持し、安心していきいきと働ける職場環境の実現にグループを挙げて全力で取り組んでまいります。具体的には、「パワーハラスメント対策・メンタルヘルス対策を含めた職場の風土改革」、「長時間労働の抑制・適正な労働時間管理」について、全社一丸となって諸施策を展開していきます。

項目	取り組み内容
職場の風土改革 (パワーハラスメント対策) (メンタルヘルス対策)	「三菱電機職場風土改革プログラム」の展開 ● ハラスメント防止教育の強化、管理職等の任命時の見極め強化 ● 意識調査を活用した定量的な職場風土分析と、分析結果に基づく継続的な改善の実行 ● 個々人の負荷やメンタルの状況を早期に把握・対応するための施策の充実 ● メンタルヘルス不調者への適切なケアの徹底 (「三菱電機 復帰支援ガイドライン」の運用点検と再徹底) ● 相談窓口の充実(複線化)等
長時間労働対策	● 長時間労働の抑制・適正な労働時間把握の継続 ● 産業医面談等の適切な健康配慮措置の実施

2020年01月10日広報発表「労務問題の再発防止に向けた取り組みについて」



CSRの重要課題への取組

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/management/materiality/index.html>

労働慣行

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/social/labour/index.html>

ガバナンス

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/governance/index.html>



コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの継続的強化



取締役会

三菱電機グループは、経営の機動性、透明性の一層の向上を図るとともに、経営の監督機能を強化し、持続的成長を目指しています。顧客、株主を始めとするステークホルダーの皆様ごの期待に、よりの確にこえうる体制を構築し、更なる企業価値の向上を図ることを基本方針としています。加えて、倫理・遵法の徹底はもとより、「企業倫理」の観点も含めたより広義の「コンプライアンス」は、会社が存続するための基本であると認識しています。

重要とした理由

コーポレート・ガバナンスとコンプライアンスは、会社が存続するための基本です。三菱電機グループは、これらを継続的に強化していきます。

主な2020年度目標

コンプライアンス
eラーニングの受講率

100% 維持

取締役への適時適切な情報提供と、
取締役会レビュー及び
その分析・評価の実施

総合的な
サイバーセキュリティ
対策強化

1. 技術的対策
2. 文書管理の徹底
3. 体制強化

不正アクセスによる個人情報と企業機密の流出可能性について

2019年6月28日に、三菱電機社内端末で不審な挙動を検知し調査した結果、第三者による不正アクセスを受け、外部にデータを送信されていたことが判明しました。監視や検知をすり抜ける高度な手法であり、かつ一部の端末において、送信されたファイルを特定するためのログ(操作記録)が攻撃者によって消去されていたため調査に時間を要しましたが、個人情報と企業機密が外部に流出した可能性があることが分かりました。

三菱電機グループはこのような事態を招いたことを深く反省し、経済産業省の「サイバーセキュリティ経営ガイドライン」にて提示されているようにサイバーセキュリティが重要な経営問題であることを再認識し、今後一層強固かつ機動性をもった情報セキュリティ施策をグローバルに展開し、常にグループ内のリスク・対応状況を把握・統括できるよう、社長直轄の一元的な組織である「情報セキュリティ統括室」を整備しました。二度とこのような事態を招かぬよう情報セキュリティ対策に取り組んでいきます。また、巧妙化、多様化するサイバー攻撃に対しては社会全体で対抗すべく知見の共有を図っていきます。



2020年01月20日広報発表「不正アクセスによる個人情報と企業機密の流出可能性について」

2020年02月10日広報発表「不正アクセスによる個人情報と企業機密の流出可能性について(第2報)」

2020年02月12日広報発表「不正アクセスによる個人情報と企業機密の流出可能性について(第3報)」

CSRマネジメント

マネジメント

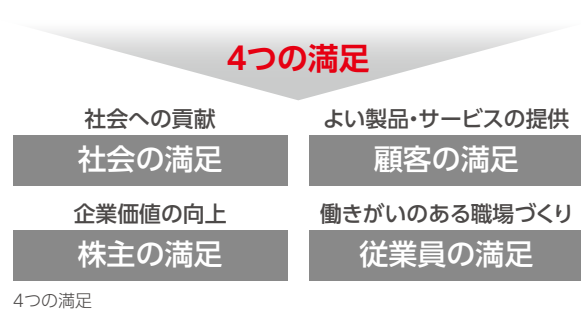
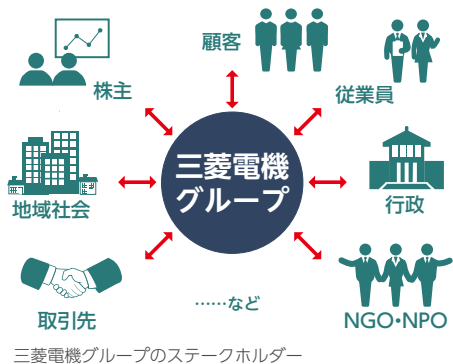
CSRに対する考え方

三菱電機グループでは、CSRの取組を企業経営の基本を成すものと位置付け、「企業理念」及び「7つの行動指針」をCSRの基本方針として推進しています。特に倫理・遵法に関する取組については、教育の充実や内部統制の強化など、グループを挙げて対策を徹底しており、品質の確保・向上、環境保全活動、社会貢献活動、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションなどについても、積極的な取組を展開しています。

三菱電機グループのステークホルダー

三菱電機グループが持続的に成長していくためには、様々なステークホルダーとコミュニケーションを取ることが必要です。各ステークホルダーからの期待や要請・ご意見を企業活動に反映させ、社会に対してマイナスの影響を減らし、プラスの影響を増やしていくことが、三菱電機グループにとってのCSRです。

ステークホルダーとのコミュニケーションについては、経営方針として「4つの満足」を掲げており、社会・顧客・株主・従業員などすべてのステークホルダーに満足いただけるよう、しっかりと取り組みます。

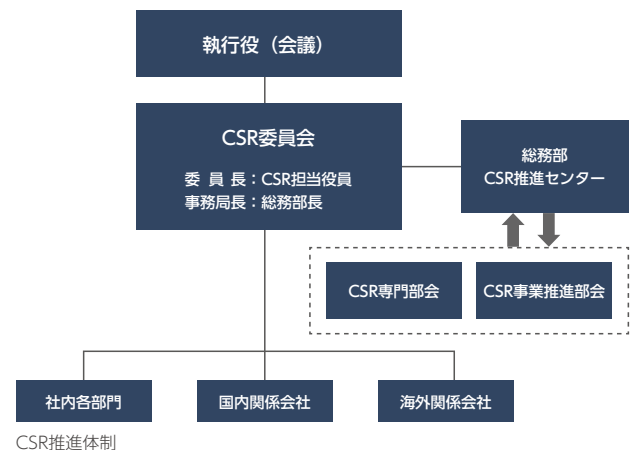


CSR推進体制

三菱電機グループのCSRの取組は、三菱電機の執行役会議から委嘱を受けたCSR委員会で方針・計画を決定しています。CSR委員会は三菱電機の管理部門長（経営企画室や人事部などの環境、社会、ガバナンス担当の21名）から構成されており、前年度の活動実績の把握や今後の活動計画の決定、法改正への対応など、三菱電機グループの横断的な視点から議論を行っています。なお、CSR委員会の内容については、執行役会議や監査委員会を通じて経営層へ報告されています。

具体的な活動については、CSRに関する活動は企業経営そのものであるとの認識から、倫理・遵法、品質の確保・向上、環境保全活動、社会貢献活動、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションなど、それぞれを職掌する部門が三菱電機グループに共通するCSR方針に基づき、責任を持って推進しています。

CSR委員会を原則として年に1回開催しているほか、CSR委員会で定めた方針・計画を共有・実行する場として、CSR専門部会、CSR事業推進部会を開催しており、コミュニケーションを図りながら活動を推進しています。





CSRマネジメント

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/management/management/index.html>

ステークホルダーとのコミュニケーション

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/management/communication/index.html>

CSR委員会の主な議題（2020年4月開催）

- 前年度の実績報告と今年度の活動予定
- SDGs(持続可能な開発目標)への対応
- ESG(環境・社会・ガバナンス)投資を考慮した情報開示の一層の拡充
- 人権の取組
- TCFDへの対応



CSR委員会

主なイニシアティブ

国連グローバル・コンパクトへの参加

2018年5月、三菱電機グループは、国際的な規範に基づいたCSR活動を推進するため、「国連グローバル・コンパクト」に署名しました。



TCFDの提言への賛同を表明

三菱電機グループは、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD:Task Force on Climate-related Financial Disclosures)の提言への賛同を表明しており、TCFDの提言に従った取組の推進、および情報の開示を行っています。



主な外部からの評価

CDP

三菱電機は、CDPから「ウォーター」の分野において最高評価の「Aリスト企業」に4年連続で選定されました。



SBT

2030年に向けた三菱電機グループの温室効果ガス削減目標が、「パリ協定」における「地球の気温上昇を産業革命前の気温と比べて2℃未満に維持する」ための科学的な根拠に基づいた目標であると承認され、SBT(Science Based Targets)イニシアティブの認定を取得しました。



EcoVadis

国際的な評価機関であるEcoVadis社のCSR企業評価において、「環境」と「持続的な資材調達」分野において高い評価を受け、調査対象全体の上位5%内にあたる企業として最高位の「ゴールド」を獲得しました。



CSRの重要課題とSDGsマネジメント

CSRの重要課題





三菱電機グループは、GRI(Global Reporting Initiative)*からの要請や、社会動向及び事業環境に鑑み、CSRをより経営と一体化し、長期的に推進していくため、CSRの重要課題(マテリアリティ)、取組項目、目標/取組指標(KPI)を2015年度に特定しました。

CSRの重要課題(マテリアリティ)、取組項目、目標/取組指標(KPI)についてPDCA(Plan-Do-Check-Action)サイクルによる継続的な改善活動を実施します。

*企業のサステナビリティ報告に関する世界共通のガイドラインを提唱する国際団体

CSRの重要課題

重要とした理由

 <p>持続可能な社会の実現</p>	<p>気候変動をはじめとする環境問題、資源・エネルギー問題は、世界的な課題です。三菱電機グループは、持続可能な社会の実現を目指し、これらの解決に貢献していきます。</p>
 <p>安心・安全・快適性の提供</p>	<p>都市化などに伴い様々な課題が顕在化しつつあります。三菱電機グループは、まちづくりを中心に課題解決に貢献し、安心・安全・快適性を提供していきます。</p>
 <p>人権の尊重と多様な人材の活躍</p>	<p>人権やダイバーシティは、世界的な課題です。三菱電機グループは、グローバル企業としてこれらの課題に対応します。また、ダイバーシティは、三菱電機グループの強みの源泉であるイノベーション創出のためにも重要です。</p>
 <p>コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの継続的強化</p>	<p>コーポレート・ガバナンスとコンプライアンスは、会社が存続するための基本です。三菱電機グループは、これらを継続的に強化していきます。</p>

三菱電機グループとSDGs

2015年に国連総会でSDGs(持続可能な開発目標)が採択されました。三菱電機グループはこれを社会から求められる重要な課題と捉えています。

「三菱電機グループは、技術、サービス、創造力の向上を図り、活力とゆとりある社会の実現に貢献する」という企業理念のもと、社会課題の解決に貢献することを目指しています。これは、世界共通の目標であるSDGsが目指すものと合致していると考えています。

三菱電機グループは、社会課題の解決に向け、多くの事業や、環境・社会・ガバナンス(ESG)などのすべての企業活動を通じてSDGsの17の目標の達成に貢献します。



※SDGs (Sustainable Development Goals = 持続可能な開発目標)

2001年に策定されたミレニアム開発目標(Millennium Development Goals: MDGs)の後継として、2015年9月の国連総会で採択された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するために、17のゴール・169のターゲットからなるSDGs(持続可能な開発目標)を掲げています。SDGsにおいては、日本も含む先進国の在り方にも変化を求めていること、また、その取組の過程で“地球上の誰一人として取り残さない(no one will be left behind)”ことを誓っていることが特徴です。



重点的に取り組むSDGs

2018年度には、更にSDGsに貢献するため、「重点的に取り組むSDGs」を定めました。

策定にあたって、社内外アンケートでSDGsへの貢献について期待の高い項目を確認した結果、事業を通じた活動への期待が高いことが判明しました。三菱電機グループのすべての事業に関わる「エネルギー」「インフラ」「環境」は、今後も更に注力する分野と考え、「重点的に取り組むSDGs」としました。

- 目標7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 目標11：住み続けられるまちづくりを
- 目標13：気候変動に具体的な対策を

総合電機メーカーとしての強みが発揮できるこれらの目標に対し、価値創出への取組をより一層推進することで、SDGsの目標の達成に具体的に貢献します。

今後も三菱電機グループはSDGsの考え方を経営に統合し、重点的に取り組むSDGsに対してCSRの重要課題である「持続可能な社会の実現」「安心・安全・快適性の提供」の取組を通じて貢献していきます。

CSRの重要課題



CSRの重要課題とSDGs

SDGsへの貢献



SDGsへの取組の進捗

三菱電機グループではSDGsに関する従業員一人ひとりの理解を深めるべく、SDGsの採択の背景や個々の目標について、様々な形で浸透策を実施しています。CSR委員会、CSR専門部会、CSR事業推進部会ではSDGsに対して、三菱電機グループとしてどのように貢献できるか、自社の取組を整理することから検討を開始し、2018年度に重点的に取り組むSDGsを決定しました。

世界共通の目標達成に向けて、引き続きマネジメントを強化するとともに、社内浸透を図り、SDGsの考え方を経営に統合していきます。

これまでの主なSDGsに関する取組

- グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン有馬利男氏による役員向け講演会(2017年度)
- 経営戦略への反映(2017年度、2018年度、2019年度、2020年度)
- 研究開発部門での講演会(2017年度、2019年度)
- 社内報を通じた理解促進(2017年度、2018年度、2019年度、2020年度)
- CSR担当者研修での推進者への教育(2017年度、2018年度)
- SDGs研修(2018年度、2019年度)



SDGs研修

17の目標への取組

三菱電機グループは、すべての企業活動を通じて、SDGsの17の目標の達成に貢献します。特に、身近な家電製品から国家規模のプロジェクトや人工衛星まで、技術・製品・サービスを多岐にわたって展開している総合電機メーカーとして、製品・サービスを通じて貢献できる面は大きいと考えています。

<p>1 貧困をなくそう</p>  <p>雇用の創出と貧困の解消</p> <p>事業のグローバル展開による雇用創出、社会インフラの整備や社会貢献活動等を通じて、貧困解消に取り組んでいます。</p>	<p>2 飢餓をゼロに</p>  <p>農業の支援と冷凍・冷蔵技術による食糧問題への貢献</p> <p>ICTや測位衛星によるIT農業の支援、FAIによる食品工場の生産性向上、食品の冷凍・冷蔵技術等によって、食糧問題の解決に貢献しています。</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>  <p>健康的な生活の確保と福祉の推進</p> <p>交通事故の削減に貢献する安全運転支援システムや、空調事業を通じた快適な空気環境の提供等によって、健康と福祉の向上へ貢献しています。</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに</p>  <p>途上国への技術支援と社会貢献活動による次世代の育成</p> <p>途上国への技術支援や通信・IT技術による遠隔教育支援への寄与に加えて、社会貢献活動による次世代育成等に貢献しています。</p>
<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>  <p>女性活躍のサポートと推進</p> <p>ICTサービスや家電製品の提供を通じた女性の社会進出のサポートに加えて、グループ内にて女性の更なる活躍を推進しています。</p>	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>  <p>水の利用可能性の拡大と持続可能な管理の提供</p> <p>水処理・水の浄化に関する技術を用いて、安全な水を供給するための技術やシステムを提供しています。</p>	<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>  <p>持続可能なエネルギーの確保と利用拡大</p> <p>省エネ・創エネやスマート社会の実現に貢献する技術やシステムの開発を進めるとともに、これらの技術・製品・サービスの普及に取り組んでいます。</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p>  <p>FAやAI技術による生産性の向上と働きやすい職場環境の整備</p> <p>FAやAI技術による生産性の向上への貢献や、グループ内における働きやすい職場環境整備に取り組んでいます。</p>
<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>  <p>持続可能な産業化の促進と技術革新の拡大</p> <p>FAによって「ものづくり」を支えるとともに、技術革新を進めること等で、産業分野の発展へ貢献しています。</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p>  <p>人権の尊重と差別の撲滅</p> <p>ステークホルダーと協力し、人権が尊重され、差別のない社会の実現に貢献しています。</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>  <p>安心・安全・快適なくらしの実現</p> <p>インフラ、家電製品などを通じて、人々のくらしに安心・安全・快適性を提供しています。</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p>  <p>持続可能な生産消費形態の確保</p> <p>メーカーの責任として、製品製造時に使用する資源量の削減、使用済み製品のリサイクルに取り組むほか、廃棄物最終処分量の低減、グリーン調達を推進しています。</p>
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>  <p>気候変動及びその影響の軽減</p> <p>CO₂を含む温室効果ガスの排出量をバリューチェーン全体で把握し、目標を立てて削減を図っています。</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう</p>  <p>生態系の保護・回復、生物多様性の損失防止</p> <p>海洋や森林の状況を伝える観測衛星を開発・提供しているほか、三菱電機の各事業所で、周辺環境との共生を図る取組も進めています。</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p>  <p>公正で平和な社会の実現</p> <p>法や国際規範に基づき、サプライチェーンと共に、グローバルで人権・労働・環境・腐敗防止等の改善に取り組んでいます。</p>	<p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p>  <p>パートナーシップによるSDGsへの貢献</p> <p>行政、大学、研究機関、企業、NGO等とのオープンイノベーションなどによるパートナーシップを通じ、SDGsの達成に貢献しています。</p>



事業を通じた社会への貢献 取組一覧

事業本部名	リスク・機会を認識・評価している主な社会課題	重点的に取り組む SDGs
社会システム事業本部	<ul style="list-style-type: none"> 水の適正利用 エネルギーの最適な利用 気候変動への対応 大気、水、土壌汚染対策 廃棄物削減・管理 持続的な資源利用・開発 	     
電力・産業システム事業本部	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーの最適な利用 クリーンエネルギーの導入 持続的な資源利用・開発 化学物質の適正管理 気候変動への対応 大気、大地、土壌汚染対策 グローバルパートナーシップの強化 	     
ビルシステム事業本部	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーの最適な利用 革新的なインフラの開発と普及 安心・安全・快適で持続可能なまちづくり 廃棄物削減 	   
電子システム事業本部	<ul style="list-style-type: none"> 安心・安全・快適で持続可能なまちづくり 気候変動への対応 森林破壊の防止 	 
リビング・デジタルメディア事業本部	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーの最適な利用 クリーンエネルギーの導入 安心・安全・快適で持続可能なまちづくり 持続的な資源利用・開発 化学物質の適正管理 気候変動への対応 	   
FAシステム事業本部	<ul style="list-style-type: none"> 持続的な資源利用・開発 化学物質の適正管理 気候変動への対応 大気、水、土壌汚染対策 労働力人口減少への対応 	   
自動車機器事業本部	<ul style="list-style-type: none"> 健康・福祉の向上 革新的なインフラの開発と普及 安心・安全・快適で持続可能なまちづくり 化学物質の適正管理 気候変動への対応 	    
半導体・デバイス事業本部	<ul style="list-style-type: none"> 水の適正使用 化学物質の適正管理 気候変動への対応 生物多様性保全 	   
インフォメーションシステム事業推進本部	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーの最適な利用 クリーンエネルギーの導入 廃棄物削減・管理 持続的な資源利用・開発 気候変動への対応 	    

CSRの重要課題に関するマネジメント状況

2015年度に三菱電機グループのCSRの重要課題(マテリアリティ)／取組項目と目標／取組指標(KPI)を特定し、2016年度より継続的に実績の開示及び各目標／KPIの見直しも行っています。

4つの重要課題	取組項目
 <p>持続可能な社会の実現</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「環境ビジョン2021」^{※1}の実現 <ul style="list-style-type: none"> ・ 低炭素社会の実現への貢献 ・ 循環型社会の形成への貢献 ・ 自然共生社会の実現への貢献 ■ 製品・サービスを通じた貢献
 <p>安心・安全・ 快適性の提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ お客様の安全を第一とした製品づくり ■ お客様の声を反映した製品・サービスの提供 ■ お客様を最優先とする品質マインド教育の継続的实施 ■ 製品・サービスを通じた貢献
 <p>人権の尊重と 多様な人材の活躍</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国際的な規範に則った人権の取組の推進 ■ 仕事と生活を両立して生き活きと働ける職場環境の実現 ■ 多様な人材の採用・活用によるダイバーシティの推進 ■ 労働安全衛生と心身の健康の確保
 <p>コーポレート・ガバナンス、 コンプライアンスの継続的強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ ステークホルダーとの積極的な対話 ■ 健全なチェック機能が働く企業経営 ■ コンプライアンスの徹底 ■ CSR調達(環境、品質、人権、コンプライアンス等)の推進

※1: 2021年を目標年とする、三菱電機グループの環境経営における長期ビジョン

※2: COP10で合意された、生物多様性の損失を止めるための20の個別目標 ※3: 100万時間当たりの休業災害件数



三菱電機グループは、「企業理念」及び「7つの行動指針」をCSRの基本方針とし、企業理念にある「活力とゆとりある社会の実現」に向け、4つの重要課題に対する取組をサプライチェーンと共に推進します。

2020年度の目標/取組指標 (KPI) 【 】内は定量目標	範囲
<ul style="list-style-type: none"> 生産時のCO₂排出量削減の推進【2020年度に147万トン以下(CO₂換算)】 製品使用時のCO₂排出量削減の推進【2020年度に2000年度比で35%以上削減】 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 資源投入量の削減の推進【2020年度に2000年度比で40%以上削減】 廃棄物最終処分率の改善の推進【2020年度まで三菱電機と国内関係会社で0.1%未満を維持、海外関係会社で0.5%未満に削減】 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 水使用量の売上高原単位の向上【2020年度に2010年度比で年率1%改善】 野外教室および里山保全活動の参加者数の増加【2020年度に累計51,000名以上】 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 愛知目標^{*2}に沿った事業所の生物多様性保全活動レベルの向上 SDGs「目標7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに」 「目標13：気候変動に具体的な対策を」に貢献する製品・サービスの提供 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> 製品使用時のCO₂削減貢献量の維持【2000年度基準で7,000万トン以上】 リスクアセスメントによる安全性の追求【対象家電製品のリスクアセスメント実施100%維持】 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 製品がお客様仕様を確実に満たしていることを確認する品質管理体制の強化 お客様の声を品質に作り込むキーパーソンの育成【国内対象部門に対し100%維持】 	三菱電機グループ(国内)
<ul style="list-style-type: none"> 重要不具合の真因究明と再発防止策の全社展開 重要不具合の全社での情報共有迅速化による対応力の強化 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 品質eラーニングの受講率100%維持【100%維持】 品質マインドに関わる階層別集合研修と講話の実施(品質風土の醸成) 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> SDGs「目標11：住み続けられるまちづくりを」に貢献する製品・サービスの提供 継続的な人権啓発活動の推進 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 人権侵害に関する通報制度の充実化 新入社員研修、新任管理職研修での人権啓発とハラスメント防止に関する講義実施 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> 全従業員へのハラスメント防止教育の実施【受講率100%】 働き方改革の目標「全ての従業員がいきいきと働ける職場の実現」に向け、20年度より新たに掲げた活動方針「職場内コミュニケーションの深化と、業務のスリム化と質的向上による業務の変革」の視点に基づく、取り組みの強化・継続推進 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 地域・業態に応じた、多様な人材の採用活用によるダイバーシティの推進 法定雇用率を上回る障がい者雇用の推進【2.2%以上】 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 技術系新卒採用に占める女性比率の向上【2021年度目標20%以上】 海外OJT研修、海外語学研修等の計画的派遣(2020年度はコロナウイルス感染拡大のため中止) 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> 安全管理活動や健康づくり活動の推進 安全衛生教育の推進と、同業種平均を下回る労働災害発生率^{*3}の維持【0.58以下】 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 三菱電機グループヘルスプラン21(MHP21)活動ステージⅢによる生活習慣改善と健康経営企業の実現推進【適正体重維持者の割合73.0%以上、運動習慣者の割合39.0%以上、喫煙者割合20.0%以下、1日3回以上の歯の手入れ者の割合25.0%以上、睡眠による休養が取れている者の割合85%以上】 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> CSRをテーマにしたステークホルダーとの対話の年1回以上の実施【1回以上/年】 株主総会、経営戦略説明会や決算説明会などの各種説明会および個別ミーティングなど、国内外IR活動を通じたステークホルダーとの対話の実施 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 取締役への適時適切な情報提供と、取締役会レビュー及びその分析・評価の実施 取締役及び執行役に対する就任時の研修、及びその他のコンプライアンス教育や研修の適時適切な実施 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> 三菱電機グループの業務の適正を確保するために内部監査を行い、監査担当執行役を通じ、監査結果を定期的に監査委員会へ報告 コンプライアンス研修の継続実施 多様な手法を駆使したコンプライアンス教育の継続実施 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスeラーニングの受講率100%維持【100%維持】 公正な競争(独占禁止法違反防止)の推進 独占禁止法違反防止施策の定着・徹底・実践的な研修を継続実施、規則・ルールの定着に向けたモニタリングの実施 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> 汚職防止(贈収賄防止)の徹底 贈賄防止施策の定着・徹底・贈賄防止教育の実施、規則・ガイドラインの定着に向けたモニタリングの実施 総合的なサイバーセキュリティ対策強化「1.技術的対策 2.文書管理の徹底 3.体制強化」 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> CSR調達ガイドラインに対する同意確認書の入手徹底【2021年9月末までに入手】 サプライチェーンにおける重大な人権侵害リスク(外国人労働者に対する強制労働、危険有害労働)の把握と是正に向けた活動の継続 	三菱電機グループ(国内)

社会貢献活動



理念

三菱電機グループは、社会の要請と信頼に応える良き企業市民として、持てる資源を有効に活用し、従業員とともに、豊かな社会づくりに貢献する。

方針

- 社会福祉、地球環境保全の分野において、社会のニーズを反映し、地域に根ざした活動を行う。
- 科学技術、文化芸術・スポーツへの支援活動を通じ、次世代の人材を育む活動を行う。



社会貢献活動支出額 約 **11.1** 億円*

*支出額は三菱電機。自社プログラム・製品寄贈等の社会貢献関連費用を含みます。

新型コロナウイルス感染症対策に向けた支援について

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、三菱電機グループで行った主な支援活動をご紹介します。今後も三菱電機グループは新型コロナウイルス感染症対策への支援を継続してまいります。

- 感染拡大防止活動を行う団体や、医療関係者を支える団体への支援 (9000万円)
- SOCIO-ROOTS基金による、困りごとを抱えた子どもと家庭を支える団体への寄付(約2000万円)
- 科学教室コンテンツの公開による子どもたちへの教育支援
- 医療用マスクの支援(10万枚)
- 作業用フェイスガードの生産、および近隣自治体等への無償提供(1万枚)
- 三菱電機(中国)有限公司から湖北省赤十字会の支援(100万人民元)
- 三菱電機ヨーロッパ社からイタリアの医療機関を支援(合計20万ユーロ)
- 米国三菱電機財団による現地団体支援(130万ドル)
- タイ国三菱電機財団による医療支援(240万パーツ)



タイ国三菱電機財団からチャイパタナ財団への贈呈式



提供したフェイスガード



科学教室コンテンツ「プログラミングを楽しく学ぼう」

*2020年7月時点



社会福祉

誰もがいきいきと暮らせる社会を目指して

誰もがいきいきと暮らせる社会を目指して、社会福祉分野での支援活動に取り組んでいます。SDGsが示す「誰一人として取り残さない」社会を目指し、障がいのある方の社会参加や自立支援、サポートが必要な子どもたちを応援しています。

2019年度三菱電機SOCIO-ROOTS (ソシオルーツ) 基金寄付実績

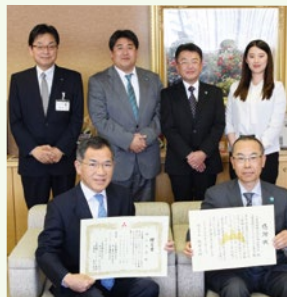


活動事例

三菱電機SOCIO-ROOTS(ソシオルーツ)基金

三菱電機では、従業員からの寄付に対して会社が同額を上乗せするマッチングギフト制度「三菱電機SOCIO-ROOTS基金」を通じて、社会福祉施設・団体への支援を行っています。

2020年3月時点で寄付先は累計約2,100件、金額にして約13億7,000万円を寄付しています。



地域の障がい者福祉施設に寄付(福山製作所)

福山製作所では、同製作所従業員からの募金に会社からのマッチングを加え、福山市の障害者体育センター、障がい者支援施設の2施設に寄付しました。共生社会実現にむけた三菱電機の活動に対し、福山市より「社員と企業の志が一つになった心温まる支援であり、利用者に喜んで活用いただけると思っています」とお礼の言葉をいただきました。

このような活動を全国の事業所で行うことで、地域の社会福祉施設の支援を継続しています。



地球環境保全



地球の未来を考えて

三菱電機グループは、行政や地域のみならずのご協力のもと従業員が主体となって進める環境保全活動や、自然を大切にする気持ちを育む子ども向け野外教室を展開しています。

2019年度の主な活動実績



活動事例

里山保全プロジェクト

三菱電機グループの従業員で取り組む活動として、2007年10月から、事業所周辺の公園や森林、河川などの身近な自然を回復する活動「里山保全プロジェクト」を進めています。多様な生命を育み、様々な恵みを与えてくれる自然へ恩返しするとともに、事業所のある地域に貢献することが狙いです。NPOや自治体にご協力いただきながら、「地道と継続」をモットーに各地域の状況に応じた活動を実施しています。



福島県・^{らち}浜防災緑地における里山保全活動(東北支社・郡山地区)

東日本大震災の被災地で集めたどんぐりを、従業員の家庭で苗木になるまで育て、2016年10月に、福島県相馬郡新地町^{らち}の防災緑地に植樹しました。

どんぐりが元気に成長し、立派な海岸防災林となることを目指し、全社から参加者を募集して定期的な保全活動を継続しています。





科学技術

未来のエンジニアを育むために

次世代の人材育成として、子どもたち向けの科学教室や教育支援を通じ、未来のエンジニアを育む活動に取り組んでいます。

2019年度みつびしでんき科学教室活動実績



活動事例

みつびしでんき科学教室

三菱電機では2009年から「みつびしでんき科学教室」として、電気や熱、音、光、風、そして通信やプログラミングなどにかかわる基本原理を、実験や工作を交えながら子どもたちに体感してもらう教室を開催しています。

実験や観察を通して理科の楽しさを伝え、学んだ基本原理と製品とのかわりを知ってもらい、製品が社会でどのように役立っているかも実感してもらいます。



プログラミングでエレベーターを動かしてみよう! (稲沢製作所)

エレベーターを開発・生産する稲沢製作所では、模型を使ってエレベーターの動作原理を説明したり、プログラミングにより動作速度や停止する階を制御したりする仕組みを体験できる教室を小学生向けに開催しました。

新入社員が講師となり、クイズを交えて実験することで、エレベーターの基本原理を楽しみながら学習するとともに、プログラミングで機械を思い通りに動かす楽しさも体験してもらうことができました。



文化芸術・スポーツ



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会とその先の未来へ*

障がい者スポーツの普及・啓発に寄与するとともに、あらゆる人がお互いを尊重し認め合う「共生社会」の実現への貢献を目指した活動をしています。

*三菱電機は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のオフィシャルパートナー(エレベーター・エスカレーター・ムービングウォーク)です。

活動事例

Going Upキャンペーン 全国キャラバン

2016年秋から、障がい者スポーツの普及啓発支援と「共生社会」の実現への貢献を目指し、全国都市を回り、パラスポーツ等を体験できる「Going Upキャンペーン全国キャラバン」を42都道府県で展開し、11万人を超える方に参加いただきました。



車いすバスケットボールをはじめとする障がい者スポーツ等の体験会を全国で開催

Going Upキャンペーン for school

2018年からは、東京都内の小学校向けの車いすバスケットボールの体験授業「Going Upキャンペーン for school」を行っています。東京都の「オリンピック・パラリンピック教育支援プログラム」に登録され、これまでに都内39の小学校で、約3,400名の児童に体験授業を行いました。



学校向けプログラムにより、共生社会への理解を促進

三菱電機グループ サステナビリティ ウェブサイト/ハイライト掲載情報一覧

◎= ウェブサイト、ハイライトともに掲載 ●= ウェブサイトのみ掲載 ○= ハイライトにも一部掲載

会社概要及び業績		◎	
グローバルな事業展開		ハイライトのみ	
社長メッセージ		◎	
三菱電機グループのCSR	経営戦略	◎	
	三菱電機の事業分野	◎	
	事業を通じた社会への貢献	○	
	CSRマネジメント	価値創出活動	◎
		バリューチェーンにおける取組	●
		マネジメント	◎
		CSRの重要課題とSDGsマネジメント	◎
		イニシアティブ/外部評価	○
		CSRの重要課題の特定・見直しプロセス	●
		CSR重要課題に関するマネジメント状況	○
	CSRの重要課題への取組	◎	
	SDGsへの取組	●	
	ステークホルダーとのコミュニケーション	コミュニケーション状況	●
読者アンケート結果		●	
有識者とのダイアログ開催		●	
社内浸透策		○	
ガバナンス	コーポレート・ガバナンス	○	
	コンプライアンス	○	
	税務方針	●	
	リスクマネジメント	●	
	情報セキュリティへの対応	○	
	研究開発	●	
	知的財産	●	
	株主・投資家との対話	●	
	環境		●
社会	お客様への対応	○	
	人権	○	
	労働慣行	○	
	サプライチェーンマネジメント	○	
	社会貢献活動	○	
編集方針		○	
ガイドライン対照表	ISO26000	●	
	GRIスタンダード	●	
	環境報告ガイドライン(2018年版)	●	
ESG調査用インデックス		●	

三菱電機グループのサステナビリティ・CSRに関連するより詳しい情報はウェブサイトに掲載しています。



サステナビリティ
<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/index.html>

環境への取組
<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/environment/index.html>

三菱電機について
<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/gaiyo/index.html>

財務情報

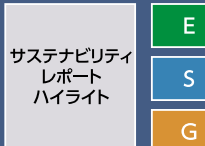
投資家情報(ウェブサイト)

- 有価証券報告書
- アニュアルレポート
- コーポレート・ガバナンスに関する報告書

非財務情報

サステナビリティ(ウェブサイト)

サステナビリティレポート



環境への取組(ウェブサイト)

環境報告

サステナビリティ・CSRにかかわる情報開示全体像

三菱電機株式会社

www.MitsubishiElectric.co.jp



家庭から宇宙まで、エコチェンジ。

「eco changes」は、家庭・オフィス・工場から社会インフラ、そして宇宙にいたるまで、幅広い事業を通じて、持続可能な社会の実現に貢献していく、三菱電機グループの環境ステートメントです。

一人ひとりが、エコチェンジ。
ものづくりを、ビジネスを、エコチェンジ、エコチェンジ。

お問い合わせ先：〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3〈東京ビル〉 総務部 CSR推進センター TEL (03) 3218-2075

